

あがべご訪問看護ステーション



右から、看護師として所属する宮谷理恵さん、同じく看護師の小池美恵子さん、代表を務める星野さん、小池さんのご主人の道敬さん。看護師は、星野さんを含め、4人が在籍しています。素敵な看板は、星野さんの奥様の作。

あがべご訪問看護ステーション

住所 飯舘村飯樋字町387
電話 0244-32-1463
携帯 080-1663-2572
FAX 0244-32-1464



●手続きの流れなど、詳細はお問い合わせを。



スタッフのパソコンが並んだ事務室。和室のたたずまいがそのまま生かされていて、ほっとできる雰囲気。

ここで訪問看護を立ち上げたいー
一緒に働いてくれる仲間と共に
3年越しの計画を実現しました

この地で訪問看護を 3年越しで実現

飯舘町に二軒家を購入し、移住して3年。この夏、星野勝弥さん（飯舘町）が、念願だった訪問看護ステーションを開所しました。

訪問看護とは、看護師が自宅を訪問し、療養生活を送る人の看護を行うサービス。健康状態の観察、入浴・洗髪・食事などの介助、薬の管理など、本人や家族の意思を尊重しながら看護にあたり、療養生活

を支えます。「あがべご訪問看護ステーション」では、日常生活の看護、疾病の予防や悪化防止の支援の他、認知症などを含む精神訪問看護で心のケアにも対応します。

8月1日の開所から、すでにいくつかの相談を受けているそうです。「その人その人のニーズに合わせたケアを心がけていきます」。星野さんの挑戦は、まだまだ続きます。

心強い仲間と共に 一歩ずつ進もう

「一緒に働いてくれる方に恵まれました」と星野さん。看護師の宮谷さんは、村の健康福祉課での勤務経験があり、その後も村の人との交流が続いています。小池さんは、多数の診療科で経験を積んだベテラン看護師。「自然豊かな村に来て、深呼吸してまずよ」と笑顔を見せます。星野さんは、「2年3年、さらに5年10年と、村の将来の中で息づいていきたい」と地道に取り組む決意です。「村の人にも、ぜひ一緒に働いてほしいですね。村に来てもらってよかったと思っただけの実績をつくっていききたいです」。

特集 いいたてで始まる 新しい物語

震災から10度目の夏。避難指示解除が行われてから3年が過ぎ、定住を目的に、村に移り住んだ人が100人に達しました（転勤などによる短期の移住を除く）。遠い歴史を振り返れば、冷害や飢饉（ききん）による存続の危機が訪れるたびに、飯舘村は、村外からの移住者を受け入れ、その人達と力を合わせて、村を再興してきました。全村避難からの村の再生は、これまでとは質の異なる挑戦ではありますが、村に戻って頑張る人も、離れて住んで時々帰る人も、やりたいことがあって村に来た人も、たまたま村に住む人も、一人ひとりが、その大切な仲間です。

9月の定例議会に提出される第6次総合振興計画案のキャッチフレーズの一つは、「ちよっと住む 時々住む すっと住む みんないいかも いいたて村」。また、村の再生を牽引してきた復興計画のテーマは、「ネットワーク型のむらづくり」です。そうした動きが、村の中で、すでに、いろいろな形で芽生え始めています。

この夏に生まれた、そんな物語のいくつかを、皆さんにお伝えします。

